

1 実践を振り返って

(1) 少人数による実験・観察の推進

継続して少人数での実験・観察を実施しているが、昨年度までの反省として、「実験や観察の内容が分からないまま取り組んでいる」生徒が多いことが挙げられた。いざ実験の場面となると教科書を見ながらすすめているが、何を調べるのかが分からないまま取り組んでいるため、結果に対してなぜそうなったのかが理解できない生徒が多かった。そのため、今年度は、レポートに予め実験や観察の手順を自分で記入し、何を調べる実験なのかを理解した上で取り組ませた。その結果、実験が昨年度よりもスムーズに進められるようになった。どの学年でも「どうやるのか」を質問する生徒が減り、特に2年生では、一人一実験のスタイルが定着し、実験後には互いに結果を比較し合ったり、他と異なる結果が出た時には再実験に取り組んだりする姿が見られるようになった。更に、机間指導がより効率的になり、個々の生徒の理解度や技能に応じた支援ができるようになった。

(2) 実験レポートの個別指導

昨年度の反省として、「実験レポートの作成力を育てる」ことを挙げ、現2年生のレポートを、考察の段

までまとめさせたいと考え、1、

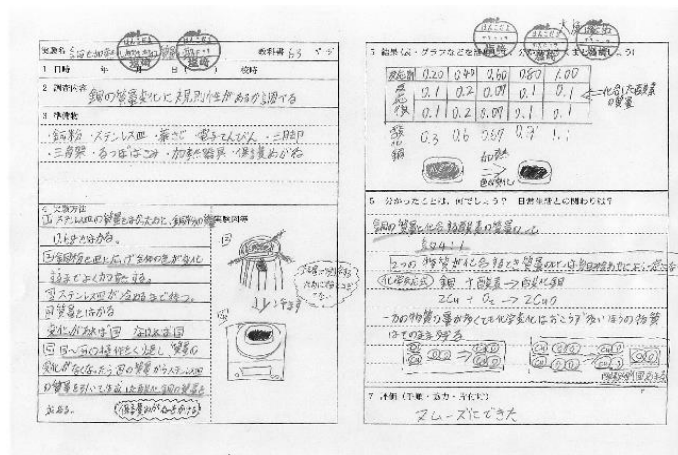
年生を中心に指導をすすめてき

実験・観察結果に加えて、なぜそ

なったのか、結果から言えること

何かが分かるレポートになるよう、助言したり、3年生のレポートを参考にしたりしながら指導した。

期の後半から向上し、時に日常との関わりにまで考えてまとめられるようになった。1年生については、まだ、自分の言葉でまとめられる力が十分とは言えないが、少しずつ内容も向上している。まとめる手立てをしっかりと理解させ、今後も指導を続けたい。



ポ  
た。  
階  
2  
た。  
う  
は

2年生のレポートの内容が、2学

(3) Classroom やタブレットの活用

今年度始めの休校措置の間に、校内研修で Classroom の活用方法について学んだ。休校中に学習する予定だった教材をアップロードし、生徒に提示した。直接記入して提出、採点ができる形式にした。少人数の利点を生かし、個々の生徒の解答に細かく目を通すことができ、助言をすることでできた。

2 今後の課題

(1) 今年度の課題として、生徒どうしが互いに考えを練り合う場面をより多くつくる事が挙げられる。まだまだ、単語だけの発表が多く、一人の発表で話し合いが終わってしまうことが多い。自分の考えをしっかりとまとめる時間を確保したり、周りの生徒と考えをぶつけ合う時間を作ったりして練り合いのある授業を多くしたい。

(2) ICTの活用をすすめる。理科室にもLANが配備されたので、ICT機材をもっと活用できるように自己研修をすすめたい。まだまだ自在に活用するにはほど遠い状況であるので、実験・観察の場面で活用する意識を高めたい。

長期休業中の際には、Classroomを活用しながら、自由研究のアドバイスであったり、教科に関わる指導を進めたいと思う。